

# 平成31年度 事業計画

日本アルコール産業株式会社

平成31年3月29日

# 平成31年度の事業運営の基本方針

平成31年度は、新中期ビジョン（2019～2023年度）の新たな一步を踏み出す初年度であり、また、最近年の災害による影響を真摯に受け止め、速やかかつ強力に、発酵、合成を問わず、供給予備力の整備、強化を推進します。

アルコール事業は、発酵アルコールについては鹿島工場のデボトルネットキング（蒸留塔及び冷却塔）と船出荷拠点の新設、磐田工場の省エネ設備の更新等を行うとともに鹿島工場の予備系列の新設に向けた基本設計を行い、供給予備力の充実を図ります。また、品質管理の強化と製造コスト削減に取り組み、原料価格及び市場動向を踏まえ、営業黒字を確保します。合成アルコールについては販売数量の維持に努め、日本合成アルコール株式会社における合成アルコール供給力の質的向上を支援します。

関連事業は、事業のあり方を根本的に見直すことを最優先とし、次年度以降の本格的な事業展開に向けた準備期間とします。

さらに、新卒採用者を増員し、人材育成と組織の活性化を図るとともに、働きやすい職場環境の整備に継続して取り組みます。また、新稲毛社宅の建設を行います。

# I. アルコール事業

## ■ 発酵アルコールの供給予備力の充実

- ・ 鹿島工場のデボトルネッキング（蒸留塔及び冷却塔）、船出荷拠点の新設並びに磐田工場の省エネ設備の更新等により安定供給基盤の強化を図ります。
- ・ 鹿島工場の供給力をより強固なものとするため、予備系列の新設に向け、その基本設計を確実に完了します。
- ・ 販売見込みに応じたサプライチェーンマネジメントを徹底し、3工場の最適生産とトータルコストの極小化を目指します。
- ・ 製品品質の管理を徹底します。
- ・ 原料貯蔵設備を効率的に運用し、発酵アルコール原料の安定的調達と工場への安定回送を図ります。

## ■ 合成アルコールの販売数量の維持と供給力の質的向上

- ・ 販売数量の維持に努め、日本合成アルコール株式会社における合成アルコール供給力の質的向上の強化を支援します。

## Ⅱ．関連事業

2019年度は、事業のあり方を根本的に見直すことを最優先とし、2020年度以降の本格的な事業展開に向けた準備期間とします。

- 手指消毒剤（キビキビ）は、備蓄品の買い替え促進等を図り、販売数量の維持を目指します。
- 土壌還元消毒用資材（エコロジアル）は、使用先における施工事例を基に土壌等のデータの蓄積を行い、技術指導体制を強化します。
- 肥料製品は、商系ルート（販売会社）の販売力を活用し、拡販に取り組みます。有機JAS適合資材についてはPR活動を継続し、市場浸透を図ります。

## Ⅲ. 技術力の強化

- 運転条件、コスト、プロセス変更の検討のため、蒸留プロセスシミュレーション技術の更なる活用拡大を図ります。
- 技術系社員人材育成プログラム、重要機器のメンテナンス講習会の実行等を通じて、社員の技術力の向上と技術の水平展開を図ります。

## Ⅳ. 人材力の向上

- グループでの計画的な採用、教育訓練、研修、資格取得を通じ、人材力の向上を図るとともにグループ人事交流による人材活用を図ります。

## Ⅴ. 安定配当の継続

適正な営業利益を確保に努め、安定配当を継続します。

# 収支計画概要

以上の取り組みにより、平成31年度事業計画では、以下の目標の達成を目指します。

(単位:百万円)

<b>売上高</b>	<b>27,921</b>
<b>営業利益</b>	<b>742</b>
<b>経常利益</b>	<b>745</b>